



## 第一回運営協議会

新型コロナウイルス流行のため、延期されていた第一回夕鶴の里運営協議会（川合ひさ子会長）が七月三十一日に開かれ、昨年度の事業報告と今年度の事業計画（案）について協議し、承認されました。

今回の協議会では今後の新しい生活様式」に対応した館の運営をどうしていくべきか活発な意見交換が行われました。今回の協議を元に夕鶴の里の運営をより良くしていきたいと思えます。

夕鶴の里資料館報  
令和2年8月10日  
第116号  
発行 夕鶴の里  
TEL 47-5800

## 漆山小学校 民話発表会

七月三十日に当館の語り部ホールで漆山小学校四年生が民話語りの発表会を行いました。リハーサルから全員がテキストを見ないで民話を語るこ



児童からは事前に夕鶴の里

↑リハーサルの衣装合わせ

宛てに

学校でも家でも毎日練習しました。わたしたちの語りをぜひ聞いてください」

という招待状をいただき、一同楽しみにしながら当日を迎えました。

発表会では皆さん、リハーサルよりも格段に上手な語りを披露して語り部さん達も驚いていました。ここでの経験が大人になっても心に残る事と思



素晴らしい語りでした！



全員で『まんじゅうこわい』

## 昔のあそび

折り紙で花を折ろう

七月二十五日に「昔のあそび折り紙で花を折ろう」が開催され、七名の参加者が折り紙でオリジナルの花を作りました。

花は一つのパーツの折り方を覚えて、同じものを五個作り、糊で貼って繋ぎ合わせて丸くして作ります。

一ヶ所、難しい部分がありましたが、そこだけクリアすると、皆さん次々と折ることができました。



皆さん上手にできました！

次回は九月二十六日（土）折り紙でこまを作って遊ぼう」です。ぜひ、ご参加ください。

# 古布の模様の美しさ展

開催中！

## 〈着物と西洋文化〉

古布とは、昭和初期以前に作られた生地で、そこにデザインされた模様は現代の私達にも新鮮な驚きを与えてくれます。

着物は十九世紀後半から西洋文化に大きな影響を与えました。特に一八六七年に開催されたパリ万博は、パリに日本熱の火をつけた」と言われており、その後も日本観光の外国婦人が帰国後に真似たものがパリで流行し、ジャポニスムという日本ブームが起きます。

西洋人が注目したのは着物の持つ染め、刺繍、織りを季節ごとに表現する独自の異国的なデザインでした。

着物の文様デザインはジャポニスムが浸透していった一八八〇年代になると西洋独自のデザイン性を加えた流行として登場し始めます。例えば菊、あやめ、流水文、すずめ、波しぶき等をデザインした洋服は着物の文様の影響を受けていると考えられます。その中でも特に竹に雀が描かれたデザインは欧米で人気の絵柄だったようです。

絵画作品に目を向けてみると十九世紀後半の絵画には日

本の着物だけでなく調度品や浮世絵等が確認できます。

このように欧米諸国は一八六〇年代から一九二〇年代までの約六十年間、日本の着物を注目し続けていました。そして、今度は西洋からの逆輸入という形でジャポニスムの影響を受けたデザインが、西洋のモダンなデザインとして日本で再び脚光を浴びることになります。



↑モダンなデザインの帯



※観覧にあたっては、市のガイドラインに基づいた感染症対策へのご協力をお願い致します。

### 参考文献

- ・きものとジャポニスム―西洋の眼が見た日本の美意識―
  - ・大正ニユース事典 第五巻大正一〇―一一年
  - ・夕鶴の里特別展
- 織りと古布展「パンフレット」